

2022年度 春山合宿 山行報告書

報告者

石川

報告日

5/12

山域

北アルプス

山行日

2022/5/2-4

山名

鹿島槍ヶ岳

登山方法

縦走

参加者

CL 館谷 SL 鈴木

谷口、石川

山行目的

部員のレベルアップ、相互親睦

【ルート図】

25万分の1 地図



【山行報告】

■第1日 5/2 (月) 曇りのち雨 (石川 記)

【行動記録】 行動時間: -

刈谷 (16:00) - 大谷原 (21:00)

1日目は移動のみ。

16:00に刈谷に集合し、高速道路で移動。

道はそれほど混雑しておらず、安曇野に19:00頃に到着。

リーダーが調べてくれた定食屋で晩御飯。

コンビニに立ち寄り、登山口の大谷原へ。

駐車場は暗く、しっかり確認できなかったが、すでに4-5台のクルマとテントが3張ほど。幸い駐車スペースと幕営するスペースは確保でき、21:00頃就寝。(トイレあり)



■第2日 5/3 (火) 晴れ (鈴木 記)

【行動記録】 行動時間: 8H30M

大谷原登山口 (04:57) → 一ノ沢ノ頭 (08:08) → 二ノ沢ノ頭 (10:26) →

第一岩峰 基部(13:00) → 幕営(14:00) → 第一岩峰 フィックスロープ設置 (16:30)

3:30起床。車中とテントで分かれて宿泊したので、広々と寝るスペースがありよく眠れた。朝食は各自となっており、自分はカップうどんを食し、お腹を満たした。昨夜は雪交じりの小雨が降っていたが、テントはそれほど濡れてなく素早く撤収。

4:57出発 林道を進み、尾根に上がる位置を探しながら歩く。バリエーションルートであるため、入口はピンクテープの目印がひっそりとあるのみであった。まずは、かすかな踏み跡をたどり、急登をひたすら登る。気温は低くないため、すぐに汗が噴き出てきた。尾根まで登りつくと、今度は険しい藪漕ぎに悩まされる。黙々と標高を上げて行き、雪が出始める。雪上歩きと藪漕ぎをひたすら繰り返し、一ノ沢ノ頭に到着。(8:08) 鹿島槍を見上げるが、頂部は雲がかかっていた。その後、雪がだんだん増えるが、融雪が進んでいるため藪が多く、アイゼンが藪に引っ掛かり進行を妨げ、体力を奪われる。



藪漕ぎ&雪上歩き



細いリッジ

10:26 二ノ沢ノ頭で小休止、本日の目的地である第一岩峰が見えてきた。また、周囲も開けてきて素晴らしい展望となりシャッターを切る。だんだんと急峻な地形となって、両端が切れ落ちたリッジとなる。部分的にはやせ尾根の頂点に筋状雪の真上を平均台を渡るがごとく、バランスを崩さないように用に、一歩ずつ慎重に渡る。(バランス崩したらお終い)

時間に余裕があったため、幕営地手前の急峻な雪稜部で、明日の岩稜部登攀の練習で、ロープにて確保しながら登攀することとした。4名での登攀システムは、ダブルロープにてリード、アッセンダーにてセカンド、フォロービレーでサード、フォースの登攀とした。ロープを結び合い登攀開始。自分はリードに挑戦！気温が上がってきているため雪が緩み、ダブルアックスも効きにくい、なんとか登る。スノーバー、ハイマツ等でランニングを4ヶ所ほど取り進み、リッジ上にアックスとスノーバーにて支点構築し「ビレイ解除！」のコール。絶景を見ながらのフォロービレイは気持ちいい。続けてもう一ピッチ、ロープ登攀中に後続の2名のパーティーに追いつかれた。(2名パーティーはフリー登攀) 予定している幕営地は狭く、テントは1張という情報があったため焦る。セカンドで登ってきた谷口にテント場確保を頼んでギリギリ確保に成功。

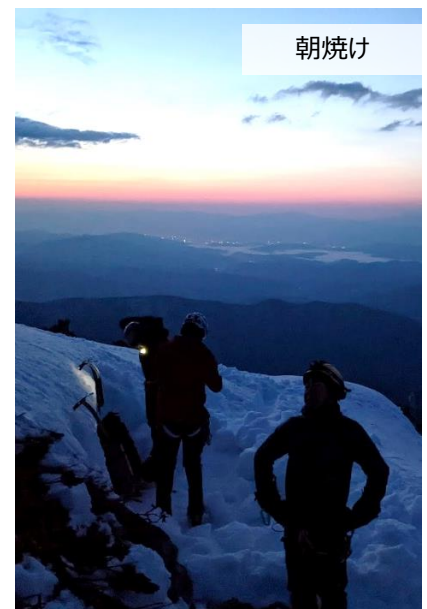


雪稜ロープ登攀



フォロービレー

尾根上にエスペースを張るだけの面積を確保するのに苦労して平地を作った。強風でテントが飛ばないように、風上側のテント足元はアックスにてガッチリ固定。雪ブロックを60センチほど積み上げ対策した。ゆっくりめの休憩をとった後、第一岩峰確認し 明日の登攀準備として、館谷&谷口ペアでフィックスロープを設置した。日も暮れ、テント内で宴会スタート。西川さんの差し入れのナッツとチーズの燻製が美味しく、酒がすすんだ。夕食は、もやしラーメン+多めのチャーシューを美味しく食し お腹を満たした。明日、3時起床のため早々に就寝。



■第3日 5/4 (水) 晴れ (谷口 記)

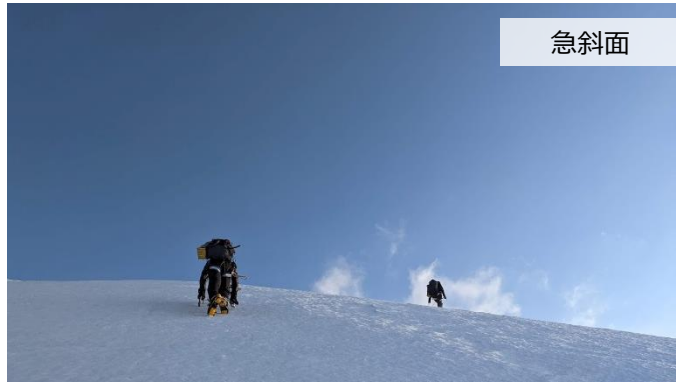
【行動時間】12h30m

第一岩峰基部(4:15)→第一岩峰上部(5:30)→第二岩峰取付(6:15)→第二岩峰上部(8:30)→鹿島槍ヶ岳北峰(9:30)→鹿島槍ヶ岳南峰(10:20)→冷池山荘(11:30)→冷乗越(12:20)→高千穂平(13:30)→渡渉点(15:40)→登山口(16:40)

3:00起床。夜はときおり強い風が吹いており、テントのはためく音が聞こえていた。ただ、厳冬期と比べるとそこまで寒くなく、問題なく寝られた。お湯を沸かし朝食を食べたのち、少し風の残る中テントを撤収する。外は薄明の頃で、二の沢の頭、冷池付近にはランタンの明かりが見えていた。4:15出発。第一岩峰は昨日のフィックスロープ設置のおかげで、アッセンダーを使いスムーズに登っていく。そこまで難しいポイントはない。全員に登りきると、日が昇り完全に明るくなっていた。そこから第二岩峰まで雪稜歩きになる。アイゼンが良く効くので不安はないが、沢の一番下まで滑り台になっているので怖い。斜度もきつくなってきたので、ダブルアックスで四つん這いになりサクサク登っていくが、ふくらはぎに来る斜面だった。適宜息を整えながらルートを確認し、第二岩峰まで進んだ。



第一岩峰上部



急斜面

6:15 第二岩峰取付到着。遠くからだとどこを登るのか不安だったが、近くに来れば過去記録や本でも見た岩峰があり安心する。取付部は比較的安定したスペースがあり一息つく。第二岩峰は2ピッチに分けることにし、1ピッチ目は鈴木がリード。露出した岩稜帯を進み、チョックストーンの手前まで難なく進む。昨日と同様にアッセンダーも活用し、ビレイポイントで4人集合。2ピッチ目は谷口がリード。ハーケンをつかみながら思い切って登る。上部で支点構築し待っていると、自分が登攀ルートの間違っていらしいことを無線経由で知る。チョックストーン右側にハーケンが数多く打たれている壁があり そっちを行ったが、チョックストーン正面を登るのが通常だったようだ。ランニングビレイの回収など負担をかけたものの、8:30頃全員登りきる。



第二岩峰取付き



1ピッチ目

そこから北峰まで また雪稜をゆく。ここで谷口は先頭を歩かせてもらった。トレースのない尾根のルートを、どこ歩こうか考えながら歩く贅沢な時間だった。昨日と比べると高度感にだいぶ慣れてきており、腰が抜けた歩きをする事もなかったと思う。

9:30 北峰登頂。全員で登頂の感動を共有し記念撮影。天気は最高で、北峰まで行けば立山も綺麗に見えた。一方で北峰周辺から風が強くなってきており、あまり落ち着ける場所ではない。前に進める風速ではあるが、舞い上がった雪が顔に当たり痛い。そんな暴風の中、岩陰で小休憩をはさみながら夏道縦走路に沿って進み、10:20南峰登頂。



雪稜歩き



無事登頂

南峰から少し降り、布引山を越え冷池山荘まで行くと風は多少やんでくる。代わりに日が昇り天気も良いので暑い。冷池山荘で服装調整、ギア整理等 長めの一本を取った。赤岩尾根もおおむね夏道に沿って降りてゆく。疲れが出てきており無口になる。雪が途絶える場所も多く、アイゼンを外したかったが、沢地形では雪は残っており、結局 渡渉点まで アイゼンありで降りた。赤岩尾根ですれ違ったパーティから、“砂防ダムのトンネルが通れない”という話を聞いたため、尾根に沿って歩き、沢に降りられる地点を探し、また渡渉可能な地点を探し、渡渉して林道に出た。会話しながら林道をパタパタ歩いていると、すぐ駐車場まで着く。16:40下山完了。お風呂、夕食を済ませ、ほぼ予定通り刈谷に到着。解散。

歩いた尾根を見ながら下山



林道歩き



【食料】（谷口）

- 2日目朝、3日目朝：各自で準備（お湯は沸かす）
- 2日目夜：ラーメン(ラ王)+もやし+チャーシュー
水を節約するため、3玉分のスープで4玉調理した。
ラ王は粉っぽくなることはない。比較的好評。
尾根下部は残雪期の汚い雪で飲む気にはなれない。
テン場付近は新雪もあり飲んでよさそう。
今回は担ぎ上げた水（共同3L程度）のみで足りた。

【装備】（谷口）

縦走のアルパインクライミングとなるため、各自軽量化を意識した。

■ 登攀用具

ザイルは50mダブルを1組、第一岩峰のフィックスロープ設置も可能で適切だった。
カム、スノーバーを利用した。

■ 共同装備

テントはエスパース4-5人用を利用。第一岩峰基部に張れる最大サイズであった。

鍋は中サイズ一つ。

ガスは小サイズ缶一つ。テント内暖房や、飲料水確保も必要なく、ガスは十分だった。

免許取得者が増えたこともあり、アマチュア無線ハンディーを準備。

配線の取り回しや操作ミスで戸惑うこともあったが通信品質は良く今後も活用していきたい。

■ 個人装備

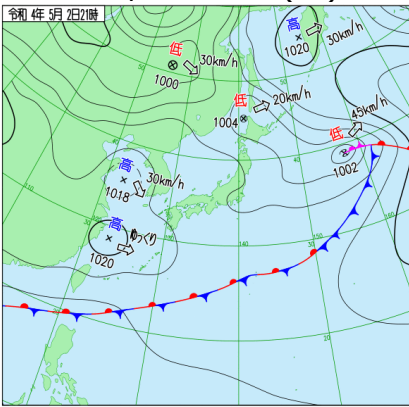
ダブルアックスがあると心強い。4人がスムーズに登るためアッセンダーが必要。

【会計】（石川）

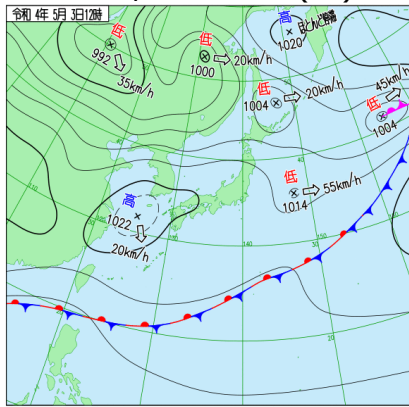
高速代：11780円
ガソリン代：5860円
消耗費：2740円
食費：900円
合計：21280円

【気象】（全員）

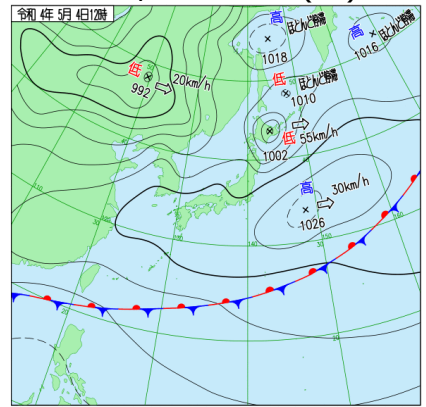
第1日 5/2 21:00（雨）



第2日 5/3 12:00（晴）



第3日 5/4 12:00（晴）



【リーダー所見】（館谷）

3年ぶりとなった春山合宿は、3年前と同じ後立山連峰。標高差2000m以上を登る鹿島槍東尾根は日帰りが困難で、幕営装備を背負っての縦走となり、体力的に厳しい山行であった。最近では平地合宿を省略することが多く、今回も出発直前に装備分担を決めてしまったが、軽量化が重要なこのルートでは事前に確認しておくべきであったと反省。融雪が早いとの事前情報もあり山行を実施するか迷ったが、尾根下部も雪は何とか繋がっており、真っ黒に日焼けするほど天気にも恵まれ、思い出深い山行となった。ルート上にはヤブ・雪壁・ナイフリッジ・岩稜・新雪と様々なコンディションが登場し、アルパインクライミングは体力・判断力・読図・ルートファインディング・登攀力・ロープワークなど登山の総合力が問われるものと再認識させてくれる素晴らしいルートであった。メンバー・サポートしてくれた方々に感謝。

【SL所見】（鈴木）

前日の降雪でトレースがないためルートの見極めに注力した。しかしルートを先導する役割でありながら、体力不足で3日目雪稜部は、谷口に代わってもらった。切れ落ちた雪稜部の連続で緊張感が半端なかった。急な斜面をトラバースするとき、自分はダブルアックスでカニ歩きであるが、同じ斜面で石川は絶妙なアイゼンワークでシングルアックスで歩行している。

【メンバー感想】

残雪期のバリエーションルートということで、連続するナイフリッジ、岩稜部登攀と盛りだくさんの内容で達成感があった。3日目、山頂近くの強風での安定歩行が出来ず体力不足で実感した。雪稜ロープ登攀は初めてであり、スノーバーでのランニング支点などは、「全トヨタ雪上訓練」での内容を活かすことが出来た。同行した、館谷リーダー、谷口、石川にだいぶ助けてもらったと感じた。でも、やっぱり雪山は、楽しいと思った。（鈴木）

雪稜歩き、冬期登攀、縦走等、これまでの自分の経験を超えるルートで、すべてをこなす総合力が求められる山行でした。自分がリードで登攀したときにわざわざ困難なルートに行くなどルートファインディングのセンスが足りないと感じさせられた。信頼できるメンバーだったからこそ無事登頂・下山できたと思います。ありがとうございました。やっぱり雪山は楽しい。（谷口）

雪上は問題ありませんでしたが、第二岩峰の登攀に苦労してしまい、リーダーや後続パーティに迷惑を掛けてしまいました。自分の実力不足にも問題がありますが、A0しないと登れないルートで2か所も掛け替えがあるアッセンダーでの登攀は厳しかったです。いろいろご迷惑をお掛けしましたが、頼もしいメンバーのおかげで無事登頂し下山できました。ありがとうございました。西川さんの差し入れも嬉しかったです。（石川）